

【問1・答案】

第六学年ともなると、自分の意志で物事を考えて行動できるようになる。今回、一人で遊ぶのが好きであるという児童の意志も尊重しつつ、仲間外れやいじめに繋がる可能性も頭に入れ、以下のような対応を行う。

まず、教師がこの児童と一緒に遊ぶことである。その児童が発見した遊びの楽しさなど話を聴き、共感するように接する。児童が心を開くまでは、極力教師が友だちになるよう努める。それができたら、この児童の良さを学級内で話題し、輪が広がっていくことを狙う。

次に、学級イベントやクラス遊びを積極的に行うことである。一人が好きで児童も、友人と関わる機会を通して交友関係を広げていくことを狙う。班や係内で意見を交わしたり、一緒に遊ぶことで、その楽しさを感じることができれば、新しい人間関係を築いていけると考える。支援するとともに、もしも、いじめに繋がるような態度が見られた場合厳しく指導する考えである。

以上の対応を行うが、児童の精神的負担にならないように児童理解を欠かさずに行いたい。その上で、たくさんの交流の機会をつくり、寂しそうにしている人がいたら声をかけあえるような学級づくりをしていきたい。

【問2・答案】

近年、人間関係に悩む児童生徒が多いことが文部科学省の調査からも問題となっている。核家族化や都市化で祖父母や近所の人など両親以外に子どもを見る人が減っていることを背景に、人との接する機会が減っていることが原因の一つとして指摘されている。人との関わりが減る中、集団生活を行う学校の役割はますます重要になっている。私は、児童の豊かな人間関係の育成を図るため、以下について取り組んでいく。

一つ目は、グループ活動を積極的に取り入れることである。人との関係をつくる上で相手の意見を尊重し、自分の意見を伝えていくことが大切である。グループ活動では、相手の意見を聞いたり、自分の意見を話したりする場をたくさんつくることができる。その機会を積む重ねることで成長を狙う。例えば、遠足で来たい場所を決めるとする。自分の意見が全員と一致すればよいが、そのようなことはほとんどない。相手の意見を尊重し、時には妥協し、最良の解決方法を話し合っていく。私は小学生の頃、意見を曲げずに激しく口論したことを今でも記憶している。しかし、相手のことを考えなかったことを反省し、それをきっかけに成長できたと感じた。振り返り活動も含め、友人との関わり方を自然に試行錯誤できるよう取り組んでいく。

△児童の意思を尊重しながら児童にとって不利益な状況になる可能性についても想像できており、適切な視点です。ただ、第2段落以降に繋げるためにも、仲間と遊ぶ意義も指摘しておくことで一段と説得力が増します。

×「たり」の用法に注意。「今日は歩いたり走ったりして疲れた」のように2度重ねて使うのが本来の用法。

←具体的にどんな配慮をしているのでしょうか、その点にまで踏み込んでください。

具体的な数値を提示できればなお良いです。

△やや不自然な表現。修正例) 人と接する

○人と接する機会が減るなかで、学校での集団生活の重要性がうまく指摘できています。

*グループ学習の重要性を指摘しているのはいいのですが、その後の具体例がややそぐわない気がします。なぜグループ学習が良いのか、全体学習との違いを明確にしてた上で、事例を示しましょう。

二つ目は、異年齢交流活動を企画することである。普段、同学年間で行動することが多いが、異なる年齢の人と接することで、他者を尊重する態度を養う。低学年が高学年に接する場合、お世話してもらうことで感謝やあこがれの気持ちを持つようになるだろう。高学年が低学年と接する場合、教えてあげる活動や見本となることが求められる。理解度も違うので、相手の立場に立って物事を考えないと行けない場面も多く生じるだろう。私は、小学生の頃悪ガキでしたが、1年生の面倒を見る時は良いお兄さんであろうと、規則を守ろうと気持ちを入れ替えたのを覚えている。このような効果が得られるよう、日頃から学校間の連携を密にし、協力体制を整えて活動していきたい。

以上二点を軸に取り組んでいくが、学級内で大切なのは信頼関係を築くことと考える。児童を褒めることを欠かさず、児童同士も相手の良い点を見つけて褒め合う環境づくりを進め、豊かな人間の学級をつくっていきたい。

←独自性のある提案ができています。また具体的事例が盛り込まれており、説得力があります。

←×ここだけ文体が他と違います。

修正例) だったが

←△ここで今までになかった話が急に出ており、ここまでの議論のまとめとしては、多少唐突感があります。